

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

「灼熱の躓き」

2018 ARTA DIGITAL Rd.4 THAILAND

WRONG STEP IN THE HEAT



今年もまたスーパー GT はシーズン唯一の海外戦、タイへとやってきた。しかし今年はいくまでの10月から6月末へと開催スケジュールが変わり、ARTAのメンバーたちは例年以上の暑さと戦うことになった。東南アジアのタイは雨期真っ只中という時期で、毎日のように訪れる強烈なスコールもまた悩みの種になった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



予選は直前のスコールから刻々と変わる路面コンディションの中で翻弄され、GT500 クラスを戦う 8 号車 ARTA NSX-GT が 8 番手、GT300 クラスを戦う 55 号車 ARTA BMW M6 GT3 が 3 番手から決勝に臨むことになった。富士と鈴鹿の快走で 8 号車は 48kg、55 号車は 52kg ものウェイトハンディを搭載しているだけに、容易な戦いではないのだ。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

Chang INTERNATIONAL CIRCUIT



Chang
INTERNATIONAL
CIRCUIT



2018 **AUTOBACS SUPER GT ROUND 4**

Chang **SUPER GT RACE**

AUTOBACS
SUPER GT 4
2018 SERIES

LAPS 66

HONDA HONDA

HONDA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

決勝直前のウォームアップ走行で、8号車をドライブする伊沢拓也とエンジニアの星学文は入念にマシンの最終調整を進めていった。

伊沢「やっぱり基本的に低速コーナーでタイヤがグリップしてない。グリップが薄いんだよね」

星「フロント車高を下げる方向にするとリアがなくなっちゃう？」

伊沢「バランスだけで言うとそれは要らない。どちらかというとなりの接地をケアして欲しい。まだ予選の時みたいな滑り方をしてるんだよね」

星「了解、リアウイングを0.5付けました」

一方の55号車はエアコンが不調となってしまう、車内はまさしくサウナのような暑さだった。

高木真一もやや不安を抱えながらのスタートとなった。

高木「エアコンが入ったり入らなかったりしてる。」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

無線の調子も悪く伊沢とのコミュニケーションはスムーズには行かなかったが、その中でも星はレース状況を的確に伝え、伊沢のモチベーションと集中力を引き出していく。星「今 17 号車が 5 番手 27 秒 6 とか 7 まで落ちてきているから、そこで渋滞になるかもしれない。頑張って 6 秒台を連発しよう」

伊沢「他はそんなに速くないの？」

星「ホンダ BS 勢の中では伊沢くんの方が全然速いよ。前は 100 号車で詰まってるからここ頑張って詰めよう。さっきの周はセクター 2 が自己ベスト、良いよ、良いペース」

伊沢「了解、了解！」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

一方、55号車のスタートドライバーを務める高木は、2輪交換作戦でのトップ奪取をエンジニアの安藤博之に進言したが、タイヤサプライヤーが定める安全規定によってそれは諦めなければならなかった。ドライバーとしては「行ける」という自分の腕と感覚を信じて挑戦したいところだが、安全を考えればそれは致し方のないことだった。

つまり、勝つためにはコース上で抜かなければならないということだ。

高木「リアは全然平気だから、フロントだけ2輪交換っていうのもありかな？」

安藤「このコンパウンドだとそれはダメです」

高木「違うよ、そりゃ分かってんの。保つかどうかってことだよ。きついのはフロントでしょ？ だったらリアは換えないっていう選択肢もありなんじゃないの？」

安藤「それは……ダメなんです」

高木「じゃあ使い切っちゃおうよ、タイヤ？ 良いんだね？」

安藤「お願いします」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

スタート直後から果敢なドライビングでメルセデス AMG GT3 をオーバーテイクし、前のアウディ R8 LMS に付いていく。ランオフエリアが広く安全性の高いチャン・インターナショナル・サーキットだが、その反面、コーナーの出口で縁石をはみ出してコースを広く取りながら走った方が速く走ることができる場所も多々ある。前のアウディの動きを見て、高木はレースコントロールに注意を促した。

高木「アウディが4輪脱輪を毎回やってるから注意して。はい、またやった。1周に2回以上はやってる。警告だね、これは」
安藤「了解」

高木「またやった、ほとんどのコーナーでやってるよ、またやってる。ダメでしょ、こんなの！1周で3~4回はやってるよ」

安藤「了解です、オフィシャルに伝えてあります」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



相手も名手リチャード・ライアンだけに簡単に抜かせてはくれない。

さらに車内のサウナのような暑さも高木の体力を削いでいく。

高木はピットストップを前倒ししてショーン・ウォーキンショーにバトンを渡し、2番目のドライバー同士の争いで優勝をもぎ取ろうと提案した。エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市もこれを了承し、ドライバーチェンジの準備をしていたショーンにもそのことが伝えられた。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

高木「このままじゃアウディを抜けないから、早めのピットインも考えて。勝負はシヨーンだよ、シヨーン」

安藤「了解」

土屋「シヨーンに言っておいて、次のドライバーで勝負するからって」

高木「ここからペース上げるよ」

暑さと戦いながらも、高木は次のシヨーンのスティントに向けてできうる限りの調整とアドバイスを続けた。

高木「燃料が軽くなったらリアが出やすいから気をつけるようにシヨーンに言って。あと何周？」

安藤「あと4周」

高木「なんだよ、長げえよ！」

土屋「真一、頑張って！」

B.R.M
..Chronographes..



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



高木からバトンを受け取ったショーンは、チーム全体の期待を背負ってコースへと出て行った。

27周でアウディはリタイアを喫したが、ピットストップを終えると代わってトップに立ったのは11号車のNISSAN GT-R NISMO GT3。

安藤「ショーン、残りは31周だ。前のトップ11号車GT-Rと争っている。彼より1秒速いぞ。トップからのギャップは6秒だ」

ショーンは果敢な走りでトップとの差を縮めていく。勝利は目の前だ。

安藤「ギャップは4秒。プッシュし続ける」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



しかし 58 周目にまさかの事態が起きた。
SW「パンクした！パンクだ！左リアのパンクだ」
灼熱のコンディションで最も負荷が掛かる左リア
にスローパンクチャーが起き、万事休す。ピット
に戻り左リアだけを交換してコースへと戻ったも
の、11 位へ転落しポイントを獲ることさえで
きなかった。

猛暑のкокピット内で獲得し続けた 2 人は激し
い疲労に襲われていたが、そんな中で勝利を目指
して戦っていただけにこの結末はあまりにも残酷
だった。土屋アドバイザーはそんな 2 人の走り
を認めねぎらった。

「速さも作戦も完璧だったね。エアコンが効かな
い中で二人のドライバーは集中力を切らさずに頑
張ってくれた。結果的にポイントは獲れなかった
けど、パフォーマンスは良かったので、次回の富
士で挽回したいね」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



一方、8号車はルーティーンのパットストップで野尻智紀にドライバーチェンジをして前を追いつける。

星「野尻、ここから頑張るよ！」

野尻「了解」

星「最初の数周で順位を結構上げられると思うから、ウォームアップ頑張っていこう」

星は伊沢が履いていたタイヤの状況を野尻に伝え、タイヤマネジメントのレベルを指示する。

星「第1スティントのリアタイヤがきつかったから、ちょっとリアを労りながらいこうか」

野尻「了解」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



SHINJI SUZUKI
AUTOBACS
Chang Chang Chang

AUTOBACS
STE

AUTOBACS
BRIDGESTONE

ART

ms



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

そんな矢先、8号車のコクピットには警告灯が灯っていた。

野尻はパワーの低下を訴える。

野尻「警告が出た。なんかエンジンが吹けないかも」

星「了解、確認するよ。緩めないで全開で行こう」

様子を見ながら走行を続けたものの、35周目に症状は悪化し、ピットインを余儀なくされてしまった。

野尻「なんか壊れた、エンジンが吹けなくなった。

ピットに入るね」

星「了解、突然壊れた？」

野尻「10コーナー？左コーナーを走ってたら急に吹けなくなって、バラバラって何かが壊れたような音がしてきた。

もう全然吹けない」



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

星「まだ何とも言えないから、走れそうだったら出て行って完走ポイントを取りに行くよ」
ピットガレージにマシンを押し込み、なんとかコース復帰ができないか原因究明と修復作業
に務めたものの、8号車はここでレースを諦めるしかなかった。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

終わってみれば上位は全てレクサス LC500 勢が占め、ホンダ勢最上位はウェイトハンディが僅か 2kg の MOTUL 無限の 5 位。そのパフォーマンス差もあったものの、週末全体として上手く戦えなかったことも事実だ。結果はともかく速さと内容としては開幕戦から順調にここまで来た 2018 年の ARTA だったが、ここにきての躓き。速さと強さの土台ができたからこそ、ここでしっかりと立て直すことこそが次のステップに繋がる。今 ARTA が直面しているのはそういう場面だ。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

A man with dark hair, wearing a dark blue racing team shirt with orange accents and logos, stands in a garage or pit area. He is leaning against a metal structure, possibly part of a race car. The background is slightly blurred, showing the interior of a workshop. The word "HONDA" is visible in large red letters on the left side of the image.

HONDA

鈴木亜久里総監督は言う。

「出口が見えないレースだったね。予選の時からバタバタしてしまっ、自分たちのレースが出来なかった。トラブルは仕方ないけど、次回はこのような事が無いように準備していきます」
次は昨年8号車と55号車がダブル・ポールトゥウインという偉業を果たした真夏の富士500kmレース。距離が長く、マシンの速さだけでなくタイヤマネジメントや戦略などチームの総合力が問われる。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA

躓いた時にどんな次の一歩を踏み出すことができるか。
次こそ ARTA の真価が見えるはずだ。



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



Sepang INTERNATIONAL CIRCUIT

4

Coming in

ARTA



AUTOBACS
RACING
TEAM
AGURI

ARTA



株式会社オートバックスセブン

ARTA

THE "BIG RACE" FOR SUZUKI AGURI STARTED IN 1998
AS HIS VISION FOR THE FUTURE. OVER THE YEARS, IT HAS EVOLVED
THROUGH THE TOUGHNESS AND WILL OF ARTA. IN THAT SPIRIT,
ARTA IS RACING TO INSPIRE THE FUTURE OF MOTORSPORTS.



ARTA Project



ARTA DIGITAL You tube チャンネル

To Be continued next race...

ZERO
BORDER
Team ZEROBORDER

©2018 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA

Text : Mineoki Yoneya

Design : Hiroaki KATAYAMA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO., LTD